

TIC NEWS

vol. **89**
2008.10

(財)とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



巨木に挑む！ ～1925年頃 富山県人が移住したブラジル アリアンサ村～
写真提供:富山県南米協会

～日本人ブラジル移住100周年～

今年ブラジルへの日本人の移住がはじまって100年になる記念すべき年です。1908年に笠戸丸に乗り神戸港を出発し、最初の移住者となってブラジルの地に降り立ったのが781人。苦勞と困難の移住生活を経て、今日では在ブラジル日系人の数は150万人を超え、“Japonês Garantido”（保証付きの日本人）と言われるまでの地位を現地で確立しています。

第7回とやま国際塾

7月19日～20日、県内高校生と海外技術研修員・留学生・外国語指導助手・国際交流員など総勢46名が国立立山少年自然の家に集い、とやま国際塾を開催しました。「富山から世界へ」と題し、1日目は地球温暖化や平和、南北問題などについて英語で学びました。2日目はとやま国際理解教育研究会代表の定村誠氏を講師に迎え、一本のバナナから途上国の現状を知り、自分達に何ができるかを考えました。また、「覗いてみよう！富山の中の世界」と題して、県国際・日本海政策課の柴垣禎係長が富山県内の国際化と在住外国人増加の背景について説明し、地域国際化の現状について理解を深めました。そして後半はポルトガル語国際交流員のエヴェルソン・レモス氏によるワークショップ“国際理解ギャンブル”にて、異文化に接した時の自分自身の反応を体験しました。

2日間をとおり、各国からの人との会話を楽しむとともに、様々な視点から世界の多様性を学び、身近に世界とのつながりを感じることができたのではないのでしょうか。



小学生のための英語教育事業

7月6日、英語教育に関心のある小学生の保護者などを対象として、「英語教育セミナー～小学校に英語がやってきた～」を開催しました。琉球大学教育学部教授 大城 賢 氏を講師としてお招きし、3年後から小学校で本格的に実施される英語教育の必要性や「文字からではなく、発音を中心に、歌やゲームで楽しく学ぶ」という指導のポイントを教えていただきました。そして、実際の活動例も参加者全員で体験。参加者からは実りのある話だった、理解しやすかったなどの感想が聞かれました。

英語教育セミナーと併催して実施した“夏休みこども英語塾”には、18名の小学生たちが参加しました。ゲームや歌などで色や体の部分を覚えたり、英語で自己紹介をしたり、英語で絵本を聴いたりして、英語に触れ親しみました。各回、英語漬けの1時間でしたが、講師の英語を理解しようとする懸命になっている子ども達の姿が印象的でした。



ニック先生と記念写真

多文化共生サポーター養成講座

今年6月7日に射水市の放生津公民館でオープンした多文化こどもサポートセンターは、毎月第一と第三土曜日の午前10時から12時まで、宿題などの学習支援や、折り紙などの遊びを通して外国籍の子どもたちのサポートをしています。

現在のサポートセンターの活動の充実と更に他の地域でのサポートセンター開設を目指して多文化共生サポーター養成講座を、8月に4回開催しました。

講師に上智大学ポルトガル語学科講師のウラノ氏、子どもの日本語グループ代表の米田氏、NPO法人多文化共生センター大阪代表理事の田村氏などを迎え実施しました。

今年で2回目となる養成講座には、29名の申込みがあり、一定の回数を受講された20名の方に修了証を交付しました。



ウラノ・エジソン氏の講義

第2回多文化こども交流会



普段あまり交流がない外国籍児童生徒同士、あるいは日本人児童生徒と外国人児童生徒が楽しく交流することを目的に8月24日(日)の午後射水市橋下条公民館で開催しました。

射水市内外よりパキスタン、ブラジルの子供たち19名、日本の子供たち22名、外国人の大人11名、スタッフも含む日本の大人68名、計120名が参加しました。

「夏休みの宿題コーナー」「おりがみ等遊びコーナー」「絵本コーナー」「レクレーションコーナー」に分かれて楽しく交流しました。また、射水市民国際交流協会と

富山県婦翔会高岡支部が主催の「各国紹介ブース」や「お茶と生け花体験コーナー」「世界のおやつ」もあり、子供も大人も楽しい一日を過ごしました。

ロシア国際交流員新旧交代のご挨拶

シェルバチュク・アナスタシアさん

皆さん、はじめまして。私はロシアのウラジオストクから参りましたアナスタシアと申します。本名は長いのでナスチャと呼んでください(茄子茶で覚えやすいです^_^*)。

2003年に初めて日本に来て、ホームステイ体験ができました。ホストファミリーと本当に家族のような絆ができてずっと交流しています。娘のようにかわいがってくれて、日本文化も色々紹介してくれました。そのとき私は日本をとて近く感じるようになり、もっと日本語と日本文化を学びたいと思いました。

2005～2006年に私は富山大学で県費留学生として勉強したことがあり、富山の美しい自然とやさしい人々が大好きになって、将来富山に帰って富山とロシア間の架け橋として頑張りたいと思っていました。8月から県の国際交流員として働くことになり本当に嬉しいです。ふるさとに帰ったような気分です。仕事も遊びも毎日楽しいです。かつて日本人の知り合いに「ロシアは近いけど遠い国のように」と言われたことがありますが、これから富山県民にロシアを紹介したりして、ロシア人と日本人がお互いのことをより深く理解できるように、また、親睦関係を強めるために一所懸命頑張りたいと思います。これから国際的なイベントが沢山行われると思いますので、多文化体験は面白いですからぜひ一緒に参加しましょう。



ディナラ・リピンスカヤさん

こんにちは、皆さん。元富山県国際交流員のディナラです。この3年間の勤務で、富山県のこと、日本のこと、いろんな体験ができ新しいことを勉強してきました。仕事で富山県の各地を回り、富山のことを勉強するのが趣味にもなりました。富山ふるさとチャレンジ試験を受け、一般レベルは合格ができましたが、中級はちょっと難しかったです。しかし、その準備で前に知らなかった面白いことをいっぱい覚えて富山の魅力を感じることができました。これからまだしばらく富山にいますので、今年は無理でも来年にまた試験に挑戦したいと思います。合格ができるまで頑張ります!

もし誰かが「富山の印象を一言でいうとどのような所ですか」と聞いたら、住みやすい所だと答えます。もう少し言うと、自然と人の日常生活がバランスのとれた所で、自然が美しく、人の心が広く優しいです。富山にいたる間に日本のことだけでなく富山と交流のあるいろんな国ー中国、韓国、ブラジル、米国などーのことも勉強できました。ロシアのことも含めて、自分のことを紹介するとき、新しいことをいっぱい勉強します。今まで当たり前で気づかなかったこと、比較するときにはわかるようになったことが山のようにあります。

これからも経験を生かし富山と沿海地方の架け橋になりたいです。富山県で経験したことを一生大切にします。





富山県人ブラジル移住年表



1910年(明治43)	3家族10名がブラジルに移住
1927年(昭和2)	ブラジル第3アリアンサ富山村建設。松沢謙二をリーダーとする4家族11名が入植
1931年(昭和6)	アリアンサ村小学校開校ならびに図書館、医局設立。
1960年(昭和35)	ブラジル富山県人会発足
1961年(昭和36)	富山県海外移住者留守家族連絡協議会設立
1964年(昭和39)	県費留学生受入れ始まる
1974年(昭和49)	富山県海外技術研修員受入れ始まる 高岡市とミランドポリス市、姉妹都市となる
1978年(昭和53)	アリアンサ富山村に日本語教員派遣開始
1979年(昭和54)	富山県南米協会設立 富山市とモジダスクルーゼス市、姉妹都市となる
1985年(昭和60)	富山県とサンパウロ州との友好提携協定締結
1990年(平成2)	南米親善訪問団派遣
1995年(平成7)	サンパウロ州副知事夫妻来県、南米親善訪問団派遣 日本語学習奨学金制度の創設
2000年(平成12)	県内在住ブラジル人児童生徒のための図書準備 南米親善訪問団派遣
2005年(平成17)	富山県・サンパウロ州友好提携20周年記念式典 南米親善訪問団派遣
2007年(平成19)	南米親善訪問団派遣



ブラジル第3アリアンサ富山村の様子

Japão

実に100年前に始まった最初のブラジル
世界最大の日系社会を築くに至りました。
は約30万人になっており、定住化が年々進

南 健一 さん (ブラジル サンパウロ州ミランドポリス市アリアンサ在住 農業)

1932年、昭和7年、私は父、母に連れられ、兄弟4人と一緒にブラジルへ来ました。今回改めて自分が歩んできた道のりを振り返って見たのですが、76年の月日が過ぎたことも、1つの通過点のように思っています。

私は、5歳でブラジルに来ました。富山県高岡市生まれですが、日本のことを鮮明に覚えているわけではありません。父が残した、当時の日本帝国旅券を見て、50日間以上も船に乗って異国の地に着いたことを思い出す程度です。

物心ついた頃から、ただ、ひたすら安定した生活を求めていることは間違いありません。アリアンサの大地は、井戸が深く、苦勞して掘り当てたこと。米やコーヒーを栽培していましたが、日照り続きや、2、3年で土地が痩せてしまったせいで、引越しを繰り返したこと。綿花、とうもろこし、落花生などの栽培に挑戦してきましたが、なかなか生活が安定しませんでした。

当時乗用車はなく、トラックも少なく、馬も珍しいほどでした。もちろんアスファルトなんていうものはありません。近くの病院と言えば、100キロ離れたアラサツバという町の病院だけでした。知人の中には、黄熱病になり、やっと乗せてもらったトラックで病院へ向かったものの、泥道でトラックが進めず、途中で死んだ人も何人かいました。

苦勞話をすれば、不幸であるかのように聞こえますが、私は妻と一緒に歩んできた道のりは、とても幸せだったと思います。何年かして、養蚕を行ったことで、生活が安定しました。養蚕を始めてからの35年間には、子供たちもなんとか独立し、次男が私の家を継いでくれています。

今では、養蚕をやめ、年金生活を送っています。私の楽しみは、富山県日本語学校の先生に会ったり、学校の本を借りたりして、日本語に触れることです。日系人たちは、今では3世、4世の時代になってきました。あのころ日本人として生きてきた時代とは違い、今の世代が少しずつ日本離れが進んでいる姿を見ると、やるせない思いをすることもあります。しかし、日系人がブラジル社会にやっと溶け込めることができただけだと思えば、また別の嬉しさもあります。

時代の流れに逆らおうとは思いません。ただ見守るだけですが、日本とブラジルが常に友好関係にあり、互いに助け合い、人種を問わず両国の人が幸せに暮らすことだけを祈っております。





中央の帽子の男性はリーダーの松沢謙二氏

写真提供:富山県南米協会

平成20年度県内で行われたブラジル移民100周年記念イベント

●ブラジル日本移民百周年記念写真展

移住の歴史を振り返るパネルを展示

- ・ 7月30日(水)～8月5日(火) ファボーレ1階
- ・ 8月7日(木)～8月13日(水) イオンモール高岡2階

●A-Haza Fashion 日本移民100周年記念フェスティバル

ファッションコンテスト、カポエイラ、サンバ演奏等
8月10日(日) 新湊中央文化会館

●VIVA! ブラジル移民100周年記念祭EM高岡

記念式典、フットサル大会、サンバ演奏、カポエイラ等
8月17日(日) 高岡市竹平記念体育会

その他、6月29日(日)に高岡市ふれあい福祉センターにおいて名古屋ブラジル一日移動総領事館を開催し、244人がパスポートの切り替え等に訪れました。また同時にTICによるブラジル移民百周年記念展も開催されました。



富山県費留学生 真砂 クリスチーナ さゆり さん
2008年度京都国際文化協会エッセーコンテスト京都国際文化協会賞 受賞!!

祖父が小矢部市出身で4月にブラジルから来日された真砂さん。現在、富山国際大学地域学部で環境マネージメント等を勉強しています。

真砂さんはこの度“私の日本文化観～私の第二の故郷、日本の今～”と題したエッセーで京都国際文化協会賞を受賞されました。



Brasil

への移民。数々の苦勞を乗り越え、今日、
また現在、日本に生活しているブラジル人
んでいます。

竹宮 マリオ さん(富山県小矢部市在住 パン屋 経営)

父が7歳、母が4歳のときにそれぞれの両親がブラジルへ移民した日系ブラジル人です。両親は子どもの教育を考え、私が16歳のときにサンパウロに引っ越しました。サンパウロではIBMで働いたりしましたが、大企業での働き方に次第に疑問を覚え、会社を辞め、田舎に出て、農業や協同組合の活動に従事するようになりました。サンタカタリーナには18年いました。野菜や蜂蜜作りをやっていました。パン作りを始めたのはその頃です。

日本に来るきっかけとなったのはある大好きな日本人との出会いです。ブラジルでいろんな話をしているうちに日本に興味をもち、36歳で来日しました。まずは新潟の食品工場で働いて、それから、金沢に移り、夜間勉強する毎を送りました。日本語だけでなく、茶道、生け花、俳句などの日本文化に触れました。また筆簞(ひちりき)、笙(しょう)、鼓など古い日本の楽器に接することもできました。日本に来て実感したのは、日本という小さい国においては、何事にも頭を使って工夫することが必要だということでした。

妻と出会い、この小矢部の地に落ち着き、自然の素材にこだわったパン屋をオープンしました。健康な食べ物を皆さんに食べてもらいたいと思ったことがこの店のはじまりです。実際私たちの子どものアトピー性皮膚炎も治り、もう薬をやめてもよくなりました。ボサノバ歌手としても活動しています。店舗兼スタジオがあるこの家には老若男女問わずたくさんの人が自然に集まるようになりました。

小さい子どものために、インターネット、テレビはほとんどつけていません。日本はテクノロジーが進みすぎていて、人間の間の繋がりが希薄になっているように思います。日本人は生活のためとって外に出て一生懸命働きすぎて、結局子どもをはじめとした家族がないがしろにされていることが多いように思います。やはり教育や社会の基本は家庭にあると思っています。

私は100年前にブラジルへ移住した日本人の気持ちを大事にしたいです。やはり一番思うのは当時の日本の大家族の素晴らしさと真面目に働くということの美德です。

ブラジルには日本人だけではなくたくさんの国から来た人達があります。世界中の人と仲良くやっていかなければいけないという感覚はブラジルで自然に培われた感覚です。そんなブラジルに感謝しています。



国際協力県民シンポジウム

“地球の未来のために、あなたができること”

今年の国際協力県民シンポジウムでは、講師に国際数学オリンピック金メダリストで、大道芸人としても人気を博す、ピーター・フランクル氏をお迎えして、「地球の未来のために、あなたができること」と題しまして基調講演および意見交換会を行います。

世界90カ国以上を訪れ、12カ国語を巧みに操るといふ驚異の語学力を持つフランクル氏は「人間の財産は頭と心」という信念の下で過ごしてきた半生を振り返り、人生を楽しくするコツを知ってほしいと、全国各地を駆け回っておられます。

フランクル氏の講演が聞ける良い機会です。たくさんの方のご来場をお待ちしています。

日 時：平成20年10月11日(土) 14:45~16:15

会 場：JR富山駅前CICビル5階 多目的ホール

対 象：一般県民 約180名(入場無料)

基調講演 「地球の未来のために、あなたができること」

講師：数学者・大道芸人 ピーター・フランクル氏



会場では併せてJICAフォトコンテスト写真展及び子供の夢の絵プロジェクトを実施します。

お問い合わせ・申込み先

〒930-0856 富山県富山市牛島新町5-5 インテックビル(タワー111)4階

(財)とやま国際センター 担当：宮本

TEL 076-444-2500 FAX 076-444-2600 E-mail:jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp

※お申込みの場合はお名前、連絡先(住所・電話番号)を明記してください。



JICAボランティア元隊員からの現地レポート

今回はインドネシアから届いた青年海外協力隊 藤堂 美樹さんのお便りをご紹介します。

みなさん、セラマシアン(こんにちは)!インドネシアに来て1年2か月が過ぎました。東ロンボクで、離乳食の指導など母子保健環境の向上を目指し、地域保健・診療所を拠点に活動を行っています。私の暮らすロンボク島は、バリ島の東側に位置し、総面積4739km²、人口280万人の島です。首都ジャカルタから飛行機で1時間半。日本との時差は1時間です。島の北部には標高3726m(富士山と同じくらい)のリンジャンニ山があります。島の西側は観光化が進められておりリゾート地として有名な所もあります。私が住む東ロンボク県のセロンという街はそれほど大きい街ではありません。車もそんなに多くはないです。自家用車よりもバイクが一般的です。また、チドモと呼ばれる馬車がタクシー代わりに庶民の足としてよく利用されています。どこにいてもパカパカ、シャンシャン(鈴の音)と走る馬車の音を聞くことができます。

街は比較的高地にあり、遠くに海を眺めることができます。毎日時間がゆっくり過ぎていきます。そんな島での貴重な日々を大切に、あと10カ月活動していこうと思っています。



藤堂 美樹さん

派遣国：インドネシア共和国

職種：栄養士

派遣期間：平成19年6月～平成21年6月

配属先：東ロンボク県保健衛生事務所

い **章** ^{ぎよくせつ} **玉雪**さん（中国江西農業大学南昌商学院 日本語学科主任）

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. 今学期は日本語文法の授業を担当しています。それから日本語専攻の三年生の2クラスの担任として学生管理をしています。また、JICAプログラムで日本から派遣されている先生の担当として、生活のお世話などをしています。

Q. 中国の近況について教えてください。

A. 北京オリンピックとパラリンピックが開催されました。9月6日のパラリンピックの開会式をテレビで見て、身体の不自由な人達が出演し演技していることに、非常に感動しました。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 去年の11月、JICA青年研修事業で富山で二週間くらい研修をしました。その間、いろんな所で富山の皆さまと接することができて非常に良かったです。

富山情報ビジネス専門学校、富山大学留学生センター、富山国際学院、トヤマ・ヤポニカなどの先生方の講義でいろんな日本語教授法を学びました。とやま国際センターの企画で華道体験や、瑞龍寺を見学したりしました。また、日本語ボランティア養成講座に参加し、ボランティアの方と日本語文型などについて討論したこともいい勉強になりました。ホームステイでは日本人の普段の生活を体験できましたし、ご家族は私を海まで連れて行ってくれました。

短い滞在中に、街中の魚売り場のおじいさんと知り合いになりました。私たち研修員に挨拶をしてくれたりしたとても親切な人でした。今でもその親切さを覚えています。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 富山の皆様、お元気でしょうか？富山でとても素晴らしい思い出が出来ました。一生の宝物として、いつまでも大事にします。いつか、またこの温かい人達のいる富山に来たいと思います。そのために頑張ります！



南昌市の歩行者天国

こんな“国際交流”やっています！

～“国際交流フェスタ～なんとサマーフェスティバル”南砺市友好交流協会(南砺市)～

～ TICから助成した事業をご紹介します～

平成19年3月に発足した南砺市友好交流協会。平成16年11月1日に8町村が合併してできた南砺市ですが、合併前から各町村では盛んに国際交流が行われていました。現在、南砺市の海外の交流都市は韓国、中国、ラオス、ネパール、ギリシャ、スイス、アメリカ、オーストラリアの8カ国に及んでいます。当協会では小中学生交流を始めとした南砺市全体の市民交流、国際交流事業の窓口として活発な事業展開をしています。

今年で2回目の開催となる“国際交流フェスタ～なんとサマーフェスティバル”。7月13日(日)には、世界の衣装体験、日本文化体験、アンデス音楽の演奏などなど盛りだくさんのフェスティバルに約400人が訪れました。地元企業に勤務する外国人研修生を始めとした様々な国の方も参加。国際色豊かなイベントとなりました。

会場では外国人生活相談コーナー（TIC出前相談）が設けられたり、各国語によるゴミの出し方のチラシを配布するなど、市民の異文化への関心、相互理解を高める良い機会となりました。



たくさんの参加者で盛り上がる太極拳

ナムブリック・オン

ナムブリック・オンはタイ北部でよく食べられるミートソースのような料理です。パクチー(コリアンダー)、レモングラス、赤タマネギ、唐辛子、ニンニクなどを使うとよりタイ料理の風味が出てきます。ディップのようにしてキュウリなどの野菜、揚げた豚の皮、もち米などにつけて食べたりするのがタイ風です。実際にご飯にも麺類にも合うスパイシーなディップです。



～作り方～

1. トマトを細かく切る。
2. フライパンを熱し、油を入れる。
3. みじん切りしたニンニクを炒める。
4. ひき肉をいれて炒め、よく火を通す。
5. 唐辛子ペーストとトマトを加え、煮詰める。
6. レモン汁、塩で味を調える。
7. スライスしたキュウリにつけたりしていただく。



～材料～

- ひき肉(豚)..... 300g
- トマト大..... 4個
- ニンニク..... 3片
- 唐辛子ペースト..... 大さじ1
- レモン汁..... 大さじ1
- 塩、油..... 少々

*唐辛子ペーストにはニンニク、コリアンダーなどが既に入っています。タイのトマトは酸味が強いので好みで他にレモングラスなど、赤タマネギなどを入れてもよいでしょう。

TICからのお知らせ

これからの行事予定

国際交流フェスティバル

10月11日(土)～12日(日) CiCビル内/CiC前広場
外国人カラオケ大会、各国音楽の演奏等

国際協力県民シンポジウム

10月11日(土) 14:45～16:15

CiCビル 5階多目的ホール

・講演 “地球の未来のために、あなたができること”
講師：ピーター・フランクル氏(数学者・大道芸人)

外国人新生活応援事業(新たに射水市に在住した外国人対象)

●日本語教室

10月21日(火)、22日(水)、23日(木) 19:00～20:30

●生活オリエンテーション

ゴミの出し方、緊急時の対応等を学習
10月24日(金) 19:00～20:30

会場：射水市大門総合会館401号室

日本海学講座 “環日本海経済交流はどのように移り変わってきたのか? — 「閉ざされた日本の海」から「平和と友好の日本海」へ — ”

10月25日(土) 13:30～15:00 県民会館701号室

災害時の「やさしい日本語」講習会

災害時における「やさしい日本語」による外国人への情報提供のあり方などを学習

11月15日、22日、29日 土曜13:30～15:30

環日本海交流会館

日本海学シンポジウム「森・海・いのちの営みに学ぶー仕事の連鎖、百年の展望」

12月20日(土) 13:30～17:00

タワー111 スカイホール

ラジオ防災情報番組 “BOUSAI RADIO”

5ヶ国語(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語)による防災情報をお届けしている“BOUSAI RADIO”。毎日の生活に役立つ情報や各国の人気音楽なども紹介します。



FMとやま 周波数82.7MHz 毎週日曜日 20:00～20:10
http://www.fmtoyama.co.jp/contents/podcast_2.html

*FMとやまポッドキャストで過去の放送を聴くことができます。

JICAボランティア 平成20年度 秋募集!

応募期間：平成20年10月1日(水)～11月10日(月)

【募集説明会：青年海外協力隊(満20～満39歳)】

①9月30日(火) 18:30～20:30 CiCビル3階

②10月18日(土) 14:00～16:00

サンシップとやま601号室

③10月26日(日) 13:30～15:30

富山市民プラザAVスタジオ

【募集説明会：シニア海外ボランティア(満40～満69歳)】

①10月18日(土) 10:30～12:30

サンシップとやま601号室

②10月26日(日) 10:30～12:30

富山市民プラザAVスタジオ

毎回2名のJICAボランティア経験者参加(予約不要、無料)

(財)とやま国際センター賛助会員募集中!

国際交流・協力事業にご支援いただけるようお願いいたします

年会費(1口) 個人会員 3,000円

団体会員 30,000円

*賛助会費に対しては、税法上の優遇措置があります。